

第 122 回水産振興のための講演会  
「豊洲新市場への移設と  
今後の展望」

東京都水産物卸売業者協会

会 長 伊 藤 裕 康

専務理事 浦 和 栄 助

第 586 号  
(第 50 巻 第 10 号)

編 集 一 般 財 団 法 人 東 京 水 産 振 興 会  
発 行

「水産振興」発刊の趣旨

日本漁業は、沿岸、沖合、そして遠洋の漁業といわれるが、われわれは、それぞれが調和のとれた振興があることを期待しておるので、その為には、それぞれの個別的な分析、乃至振興施策の必要性を、痛感するものである。坊間には、あまりにもそれぞれを代表する、いわゆる利益代表的見解が横行しすぎる嫌いがあるのである。われわれは、わが国民経済のなかにおける日本漁業を、近代産業として、より発展振興させることが要請されていると信ずるものである。

ここに、われわれは、日本水産業の個別的な分析の徹底につとめるとともに、その総合的視点からの研究、さらに、世界経済とともに発展振興する方策の樹立に一層精進を加えることを考えたものである。

この様な努力目標にむかつてわれわれの調査研究事業を発足させた次第で冊子の生れた処に、またこれへの奉仕の、ささやかな表われである。

昭和四十二年七月

財団法人 東京水産振興会  
(題字は井野碩哉元会長)

目次

第一二二回水産振興のための講演会

「豊洲新市場への移設と今後の展望」

第五八六号

市場移転に至る歴史……………	5
市場人としての使命……………	9
築地市場の規模・概要……………	14
豊洲への移転理由……………	17
豊洲市場の基本構想……………	19
豊洲市場の外形イメージ……………	25
豊洲市場の規模……………	28
豊洲市場の基本設計……………	33
場内の物流……………	38
七街区の施設整備の状況……………	42
六街区・五街区の施設整備の状況……………	61

時事余聞 編集後記

伊藤 裕康

略歴  
 △昭和九年一〇月 東京都生まれ、昭和三四年三月、中央魚類株式会社入社、昭和五二年六月、同社取締役、平成元年六月、同社常務取締役、平成七年六月、同社専務取締役、平成九年六月、同社代表取締役社長、平成一六年六月、東京都水産物卸売業者協会会長、平成一八年五月、社団法人全国中央市場水産卸協会会長、平成二〇年五月、社団法人築地市場協会会長、平成二二年六月、中央魚類株式会社代表取締役会長、現在に至る

浦和栄助

略歴  
 △昭和三九年七月 東京都生まれ、昭和六二年四月、中央魚類株式会社入社、平成一七年四月、同社開発部ゼネラルマネージャー兼新市場準備室室長、平成二〇年七月、同社壇干部部長、平成二二年一月、同社退職、平成二二年二月、東京都水産物卸売業者協会新市場対策部参与、平成二六年八月、株式会社水産卸ビジネスサポート 統括部長、平成二八年七月、東京都水産物卸売業者協会専務理事、現在に至る

# 第一二二三回水産振興のための講演会 「豊洲新市場への移設と

## 今後の展望」

東京都水産物卸売業者協会

会 長 伊 藤 裕 康

専務理事 浦 和 栄 助

○司会（西本） それでは時間となりましたので、水産振興のための講演会を始めさせていただきます。

本日は御多忙の中、多数の御出席をいただきまして、まことにありがとうございます。本日の司会を務めさせていただきます、東京水産振興会の西本でございます。よろしくお願いいたします。

本日は、築地から豊洲への新市場移設のテーマを設定

当会では水産に関する普及啓発事業として、本講演会を昭和四十二年より開催いたしております。今回の講演で一二三回目となります。昨年は低温物流をテーマに開催いたしました。

本日は、一月七日に開場が予定されています、築地から豊洲への新市場移設のテーマを設定させていただきました。演題が「豊洲新市場への移設と今後の展望」と題しまして、東京都水産物卸売業者協会会長の伊藤裕康様と、当協会専務理事の浦和栄助様のお二人をお招きして御講演をいただきます。

お手元に資料を準備させていただきました。講演会演題と講師の御略歴、本日の講演内容の項目、そして講演内容から抜粋した資料をお配りしております。

ここで、講師の御紹介をさせていただきます。最初に伊藤様ですが、昭和九年のお生まれで、昭和三四年に中央魚類株式会社に入社、昭和五二年に同社取締役、平成七年に同社専務取締役、平成九年に同社代表取締役社長に就任され、平成一六年に東京都水産物卸売業者協会会長、平成一八年に全国中央市場水産物卸売協会会長、平成二〇年に築地市場協会会長、平成二二年に中央魚類株式会社代表取締役会長に就任され、現在に至っています。また、平成二四年度からは当会の理事にも就任されています。本日は、東京都水産物卸売業者協会会長のお立場として御講演をいただきます。

次に浦和様ですが、昭和三九年のお生まれで、昭和六二年に中央魚類株式会社に入社、平成一七年に同社開発部ゼネラルマネージャー兼新市場準備室室長、平成二〇年に同社塩干部長を経られて、平成二二年度に同社を退職され、東京都水産物卸売業者協会新市場対策部参与に就任され、平成二六年度に株式会社水産卸ビジネスサポート統括部長、平成二八年度に東京都水産物卸売業者協会専務理事に就任され、現在に至っています。

まず初めに伊藤様から、豊洲新市場への移設から今後の市場のあり方とその思いについてお話をいただきます。その後、浦和様から豊洲新市場の設備、配置の構造、売り場、物流動線、最新の状況の写真などをお見せいただきながらお話しいただきます。

講演会ではまず初めに伊藤様から、豊洲新市場への移設から今後の市場のあり方とその思いについてお話をいただきます。その後、浦和様から豊洲新市場の設備、配置の構造、売り場、物流動線、最新の状況の写真などをお見せいただきながらお話しいただきます。講演時間は約七〇分を予定しております。講演後に質疑応答の時間を持ちたいと思います。

それでは伊藤様、よろしくお願いいたします。

○伊藤講師 皆さん、こんにちは。ただ今御紹介をいただいた伊藤裕康と申します。



いまだに協議、調整が続いており、私も日々それらの打ち合わせに追われているという状況でございます。本日、どこまできちんとしたお話ができるのか大変心配でございますが、わかる範囲で、また私の今の思いの中でお話をさせていただきます。

振興会さんから豊洲市場への移転について講演をしてくれというご依頼を受けました際、情勢がどんどん変化するものですから、なるべくギリギリのタイミングでお話したいということをお願い、本日の開催となった次第です。既に御承知のように、一月七日に市場をオープンするという予定は決まっておりますが、そこへ向けて今四カ月を切ったわけですから、いまだに協議、調整が続いております。私も日々それらの打ち合わせに追われているという状況でございます。本日、どこまできちんとしたお話ができるのか大変心配でございますが、わかる範囲で、また私の今の思いの中でお話をさせていただきます。

実はちょうど六月に入ったところで本体工事はほぼ終了いたしました。ほとんど出来上がったところでございます。そして、各事業者の方の事務所を造ったり、あるいは食堂などの施設ですとか、それぞれの細部の工事がこれから進められるという、



ちようどその境目でございます。そうした中で、私も二度ほど現地に行って全部視察してまいりました。

新市場は、物が入っていないせいもあるのですが、よくこれだけのものが出来たなと思わせるほどの巨大なスケールの建物でございます。大きさの比較で言いますと、この後、浦和君の話の中にも出てまいります。銀座二丁目から八丁目をさらに越して新橋あたりまでいくだけの長さで広さを持った市場でございます。大変なものが出来たんだという実感でございます。

この巨大な新市場でこれからどういう仕事をしていくのか、どう活用していきけるのだろうか、ということが私どもにとつての最大の課題でございます。それを今、調整をやっているという段階でございます。

## 市場移転に至る歴史

本日はそのお話をするのに、二つの資料をご用意させていただきました。皆さんのお手元にあるのが、私の属しております全水卸（全国水産卸協会）という団体の隔月刊誌の原稿でございます。九月号に掲載予定の日本水産の前社長の垣添直也さんのご寄稿でございます。大変長い文章ですが、市場について触れられた部分があったものですから、著者の了解を得た上で、そこだけ抜粋して皆様にお配りしたわけござ

巨大な新市場でこれからどういう仕事をしていくのか、どう活用していきけるのだろうか、ということが私どもにとつての最大の課題

築地市場がどうい経緯で、あるいはどつう背景でできたのか

います。

そこには、築地市場がどうい経緯で、あるいはどうい背景でできたのかということがまとめて書かれてございます。あくまで一生産者側から見た市場ということでございますけれども、かなりよくまとまった見方をされておりますので、これを御紹介したいと思ってお配りしました。

前半を御紹介しますと、江戸時代初期に定着した「魚問屋」を中心とした魚介類の流通が、明治半ばまで約三百年にわたって続いたということでございます。明治期以降、この市場をどうするのが課題とされる中、米騒動などの社会的な事件が起きてきまして、国家の方針のもと、市場を全部整理して中央市場というものをつくらうということになって、法律も決まりました。

そういう中で京都、あるいは関西地方から先に始まって、関東大震災で日本橋の市場が被災し、さて行き場所がないということで築地の地に皆がやってきて、ここで一〇年ほど、まだきちんとした中央市場になる前に、既にここで営業が始まっておつたところなんです。それに新しい市場の考え方、そして組織をきちんとつくるということ、まさにトップダウン、国の力で、上からの流通革命といえますか、一つの大きな変革が行われました。例えば卸、仲卸もこの法律のもとでできたわけで、それに向かつてそれまでの問屋さんを整理して、卸、仲卸を分けて整備されたのが築地市場でございます。築地市場が正式にスタートしたのが昭和一〇年でございます。ざっと

計算してみますと三三二年ですか、日本橋から築地へ間にこれだけの年数がかかっているということでございます。

そしてもう一つ、カラー刷りの資料がございますが、これは今の築地から豊洲移転に決まるまでどんな経緯だったかということを簡単に、時事通信の山田さんという水産部長の方に、かつてまとめてもらったものを復刻して、私がきょう持ってきたわけでございます。

それをご覧いただくと、その議論が始まったのが昭和四〇年代。このころは、三〇年代以降の高度経済成長のもと、どんどん取り扱いがふえていく。このままではパンクしてしまう。一方で設備の老朽化も進んできた中で、これからどうするのだということ議論が始まった。最初は国から、今の大田市場に全部行ってくれと。要するに神田も築地も全部、大田と一緒にやったらどうだということ、強力な指導があったわけでございますけれども、水産の方では「それはだめだ」ということで頑張った。

一ページの下にございますが、昭和六〇年には築地本願寺で移転反対大決起集会が開かれたということでございます。東京都からは市場内で集会をやられたのでは困るということで、場外でやってくれということで本願寺で結集したわけでございます。

それを受けて結局、築地でやるやということになりました。築地再整備ということと動いてきたのですが、それがまた頓挫した。やがて、最後のページにございますように、平成一三年に豊洲でやろうということに方向転換して、決まったということ

今の築地から豊洲移転に決まるまでどんな経緯だったか



四〇年以上も年数をかけて市場を移すということが決まり、平成一三年から二年間かけて、東京都は中央卸売市場当局として、どういう市場を目指すのかを議論するためコンセプト懇談会を設けた

でございます。

ですから、最初の議論が始まってからここに至るまで四四年かかったわけです。四〇年以上も年数をかけて市場を移すということが決まり、平成一三年から二年間かけて、東京都は中央卸売市場当局として、どういう市場を目指すのかを議論するためコンセプト懇談会を設けた。そこには、学者さんやら、あるいは本日この場所に東京都水産の関本社長がおいでですが―当時、彼は若手のバリバリの社員でございまして―そうした専門の方々は何人かこの懇談会に入り、さらには消費者の代表の人も入るということで、議論をかなり丁寧にやりました。片方ではいろいろな調査をやり、考え方をまとめながら、この市場をどうしたらいいかということをもまとめようとしたわけですね。その時の考え方としては、機能的な市場をつくろうということで、物流や卸売、あるいは仲卸の機能をどういうふうにやったらいいのか総合的に考えようとしたのですが、それが約二年間かかっております。

ところがこの後、平成一五年になりました市場長の交代と同時に、それまでの考え方から大幅に変わりました、むしろテリトリ―別といいますか、旧来の築地がとつていた卸、仲卸、そして青果と、大きく三つに区分したやり方がいいのではないか、そのほうが話が早いのではないかということで、今の新市場構想の原型ができたわけです。

したがって、五街区に青果、そして六街区に水産仲卸、七街区に水産卸という基本構図がさだまり、それが現在まで、途中で汚染問題などもあったわけですが、それらを全部乗り越えて今日まで来て、これが現在の設計の基本的な考え方になっております。

この中ではそれぞれ五街区は五街区、六街区は六街区、七街区は七街区という、街区単位で物事を考えていく思想で設計が行われてきたということで、残念ながら市場トータルを見た、最初の二年間で議論されたような発想から少し変わりました、街別の設計という考え方が主流でございまして、そういう中で街区ごとに多少異なる設計、建設が行われたということが一つの大きな特徴になっております。

## 市場人としての使命

様々な議論を踏まえた上で、今日まで五八八〇億円という大変なお金をかけて、ここまで建設が進んできたというのが現在の姿

その中では、いわゆる全体の物流であるとか、街区間の連携が若干足りないという面がございします。しかし、そういう様々な議論を踏まえた上で、今日まで五八八〇億円という大変なお金をかけて、ここまで建設が進んできたというのが現在の姿でございします。ハード面では、築地に比べて、いろいろな機能がほぼ一カ所に集中しています。しかも、あちこちバラバラにあるのではなくて、大きな全体の建物の中に全部集約されたという点ではかなり大きな変化だと思えます。問題はそれをどういうふうに生かして、どういうふうに使っていくのか、我々に課された大きな使命でございします。

物と人と情報と、さらにみんなの知恵を結集し、それらを上手に生かして、全体をまとめて市場としてどういうふうにこれを発展させていくのが、我々にとっての課題

現在、我々が考えておりますのは、その中でいかに効率の良い物流といえますか、市場の特徴は物と人と情報と、さらにみんなの知恵が結集するのが私は市場だと思っております。そういうものがほかの流通にはない大きな特徴でございます。それらを上手に生かして、全体をまとめて、市場としてどういうふうにこれを発展させていくのが、我々にとっての課題でございます。それは一人、二人が考えるのではなく、それぞれが必要に応じていろいろ考え、知恵を出し合い、水産であれば生産の変化あるいは供給の変化がたくさんございます。そういうものを加味した上で、新しい市場をつくり上げていけるんだと私どもは思っております。

僕自身も先ほど御紹介いただきましたように、市場生活は既に五〇年を超しておりますが大変長いのですが、私は市場が大好きでありまして、そしてまたこの市場をただ単に市場の中だけの論理、理屈、あるいは調整なりで済ましてはいけません。そうではなくて全体の流通というか、生産と消費をつなぎ合わせる流通としての役割が極めて大きいと私は思っております。その中で我々市場としては、どういう仕事ができるのか、みんなで考え、そして実際の行動の中でそれを集め、まとめていくことが大事なんだろうと思ひまして、それをしきりに今、考えているところでございます。

私どもが一番見誤っちゃいけないのは、今の生産、消費の大きな変化がございます。さらには供給面でも輸入品であるとか、あるいは養殖が大変盛んになっておりまして、これらの製造、それらの品質、そしていろいろなものの変化をつかんだ上で、我々の

流通はどういくなたということが我々の大きな課題でございます。

今、私としてはそれらを市場の中だけで考えちゃいけないと思っております。先ほどの垣添さんの文章の三ページ目を御紹介しますと、「日本橋魚市場時代からの市場人伊藤春次が「移転は二一世紀の夢」と語り、テオドル・ベスターさん（元ハーバード大学教授）がその著書で「奥の深い文化、歴史、経済、食、制度、社会的意義を映し出している」と書いた築地は、その難産の開場から八〇年余りたつて、関係者のさまざまな思いを抱きながら豊洲に移転し、新たな時代を開くことになる。この難事の中の難事とも言える市場移転を粘り強く推進、実現された関係の皆様の努力に心から敬意を表する」と書かれています。これは私どもに対するお世辞だと思っておりますが、このように書かれてございます。

「起業家精神を再び呼び起こすときがやってきた。人や企業が達成したい目標とは、人や企業が実現したい「夢」でもあるか？ 私たちは「夢」を持っているか？ 先達を輝かせたと同様な」

今、一番大事なことは垣添さんがここで書かれておりますけれども「起業家精神を再び呼び起こすときがやってきた。人や企業が達成したい目標とは、人や企業が実現したい「夢」でもある。今、私たちは「夢」を持っているか？ 先達を輝かせたと同様な」ということであり、また後半に書いてあるのは「私たちが目指すべき方向は、ローカルとグローバルの共存となるであろうと。水産業は「モノ」と「コト」の双方を追いかけることのできる産業である。「モノ」は有限でも「コト」は無限、価値の創造も無限である。この方向に沿って、水産業は生産と消費がお互いに結びつき、人類のさまざまな価値観を巻き込んで、二一世紀にふさわしいライフスタイルを発信、提案



我々は様々な形でいろいろな知恵を持ち寄り、いろいろな情報を持ち寄った中で、市場というものをしっかりとくり上げていきたい

し続ける事業モデルの実現を目指さなければならぬ」と、大変元気のいい、そしてまた先を見すえた考え方なのですが、私はこの考え方に全く賛成でございます。

我々は様々な形でいろいろな知恵を持ち寄り、いろいろな情報を持ち寄った中で、市場というものをしっかりとくり上げていきたいと思えます。恐らく何年もかかると思いますけれども、今、我々はいろいろな仮説に基づいて、こうしたらいいんじゃないか、ああしたらいいんじゃないかということで、いろいろなことを相談し、まとめ、あるいはお金を用意し、進めておりますが、それらを全部まとめ上げた、しっかりと、いい市場を目指して、絶えざる努力をしていきたいというのが私の思いでございます。

新市場の身については、これから浦和君から詳細な、写真や図を中心にした説明がありますが、これらを聞いていただいて、豊洲というのはどんな市場になるのかを見ていただきたい。私の方からは、少し大風呂敷を広げたお話を申し上げましたが、こういう気持ちだけは常に持ち続けていきたい。市場は決して斜陽ではない。我々は可能性を信じて、これからさらに頑張っていきたいと思っております。今の気持ちだけを皆様にお伝えして、とりあえず私のお話はこれでまとめさせていただきます。ありがとうございます。(拍手)

○司会 伊藤様、どうもありがとうございます。

続きまして浦和専務様から、豊洲市場について、最新の写真を踏まえた具体的なお

話を続けていただきます。よろしくお願いいたします。

現在の築地の規模感と、どのような移転となるのかということ。あとは多少物流の考え方の。どんな市場で、どのような物流になるのだろうかというお話。そして、豊洲はこんな市場ですよということ、写真等を中心に御紹介

○浦和講師 東京都水産物卸売業者協会で今月から専務理事を拝命いたしました浦和と申します。たくさん先輩の前で、まして会長の後にお話をするというのはなかなか心苦しい部分がありますが、本日私からは、現在の築地の規模感と、どのような移転となるのかということ。あとは多少物流の考え方の。どんな市場で、どのような物流になるのだろうかというお話。そして、豊洲はこんな市場ですよということ、写真等を中心に御紹介申し上げたいと思います。



## 築地市場の規模・概要

まず、築地市場の規模感ですが、関係者の方々はよくおわかりになられている部分もあるかと思いますが、どのくらいの規模の市場が移るのかということでございます。平成二六年の実績(図1)ですが、水産物では一日でおよそ一六〇〇〜一七〇〇tの荷物が動きます。これとは別に通過物といまして、地方・近郊の卸売市場に行く部分もさらに一〇〇〇tぐらいあつて、水産物で日々三〇〇〇t弱ぐらいの荷物が動いています。さらに青果では一〇〇〇tぐらいの荷物があり、築地は非常に大きい取引規模の市場でございます。

商いは、平成二六年で水産は年間四三〇〇億円ぐらい、青果が八六四億円ということで、合わせて五〇〇〇億円以上の取引額がある市場

商いは、平成二六年で水産は年間四三〇〇億円ぐらい、青果が八六四億円というところで、合わせて五〇〇〇億円以上の取引額がある市場でございます。

入場者では、現在働いているのがおよそ一万五〇〇〇人から二万人ぐらいと言われておりまして、買出人等を入れて四万二〇〇〇人ぐらい。車両台数では、一万九〇〇〇台ぐらいの車両が日々行き来するという場所でございます。

施設面積は大体二三haですが、これは後ほど豊洲市場との比較で改めて説明します。先ほどの会長のお話でもありましたように、大震災を乗り越えて、昭和一〇年にくきた市場でございます。

## 築地市場の概要

・取扱数量 (平成26年実績)	水産物	452,415トン/年
		1,676トン/日
	青果物	292,462トン/年
		1,095トン/日
・取扱金額 (平成26年実績)	水産物	4,350億円/年
		16億1千万円/日
	青果物	864億円/年
		3億2千万円/日
・入場者	人員	約42,000人
	車両	約19,000台
・施設規模	敷地面積	230,836㎡
	建物延べ面積	285,476㎡
・開場年月日		昭和10年2月11日

図1

## 築地市場の概要

関係業者数 (平成27年4月現在)

・卸売業者	水産部	7社
	青果部	3社
・仲卸業者	水産部	638業者
	青果部	103業者
・売買参加者	水産部	293業者
	青果部	653業者
・関連事業者	流通補完業者	20業者
	物販・飲食業者 その他	115業者
		21業者
合計		1,853事業者!

図2

## 豊洲新市場への移転の必要性

1. 施設の老朽化  
昭和10年の開業 創業80年  
⇒部分改修工事では間に合わない
2. 施設構造の変化  
開業時～鉄道輸送 プラットホーム  
現状～トラックによる搬入搬出 ⇒物流の錯綜
3. 衛生・品質管理の必要性  
開放型の構造上、温度管理が不十分・風雨等の影響を受けやすい。
4. 施設の過密・狭隘化  
買い出し車両の駐車スペース・荷捌きスペースが大幅に不足しており、物流作業が非効率

図3

一八〇〇ぐらいの事業者が、今年の一月に一気に移動するという、世紀の大事業

では、業者はどのぐらいあるのだろうかというのがこちらの概要でございます(図2)。水産卸が七社。青果は三社と書いてありますが、シテイ青果さん一社と、二社が中央鳥卵さんと中央漬物さんですので青果は実質一社でございます。仲卸さんは、平成二七年で水産が六三三、青果が一〇三。売買参加者は、水産が二九三、青果が六五三。関連業者はいろいろありますが、飲食・物販では近年テレビ等で頻繁にも取り上げられていますけれども、一二〇近くあります。

仲卸さんの中には豊洲に行かない方もいらっしゃいますので、最終確定はしていませんが、仲卸の数はこれから少し減っていくのではないかと言われております。

以上のような業者さんを全部含めて一八〇〇ぐらいの事業者が、今年の一月に一気に移動するという、世紀の大事業となります。しかも、一月二日まで営業して、一月七日にまた同じように営業するということで、なかなか困難な仕事であるというのは事実でございます。

## 豊洲への移転理由

豊洲市場へなぜ移転しなければならないのか、大きな原因を四つにまとめました(図3)。一つ目が施設の老朽化です。関東大震災の経験を生かして昭和一〇年に建造された非常に堅牢な建物であり、東日本大震災も乗り越えました。しかし創業から八〇

年も経過し、さすがに部分改修では間に合わないような老朽化が食い止められないという状況になってきているということです。

二つ目は施設の構造です。開業当初は鉄道輸送と川での船の輸送が主体で、鉄道が乗り入れて荷下ろしをするため扇型の構造になっております。ところが、鉄道輸送がなくなり、現在はトラック主体ということで、当然ですが、入る動線と出る動線が全く同じになっているのですね。前は自動車が入ってきて、そこで荷物をおろして、それで鮮魚のところはホームと言うのですが、そこで商売をしたら、今度は反対側の朝日新聞側に出ていくという市場だったわけです。そうした構造が物流手段の変化に対応しづらくなったということ。

衛生感覚が非常に変わってきているというのも現実の状況として、衛生管理が本当に大事な要素になってきている

あとは衛生と品質ですね。これはまさにこのとおりで、現在の開放型の市場では風雨や温度管理——我々の小さいころはお魚屋さんという猫がちゃんといって、「猫がいるからネズミがいらないだろう」という感じのもので、当たり前のように認識していた。ところが、今のスーパーのバックヤードに猫がいたら、誰も買い物に行かないですよ。そういうふうには衛生感覚が非常に変わってきているというのも現実の状況として、衛生管理が本当に大事な要素になってきている。

施設の過密・狭隘化ですが、買出人の車両の駐車場スペースや荷捌きスペースは、その時代はボンと荷物を持っていくだけでよかったです。今、築地から各店に荷物を分けていく。どこの市場でも同じですが、そういう形になっている。したがって

我々が卸売をした後に、またさらに仕分けという作業がかなり細かく生じるということですが、非常に大きな今のニーズとしてあります。

築地市場はよくできた市場だが、温度管理や場所の問題などを含めてかなり厳しくなっている

築地市場はよくできた市場だと思います。駐車場を使いながら、あるいは時間で三回も四回も車を入れかえて、入荷の車両を二度回転させたら今度は出荷の部分で、最初は大口の地方市場へ出すものや、量販店のセンターへ出ていくもの。それが終わった後に、今度は各店のスーパーさんの配送のもの。さらにそれが終わった後に業務筋の小さい車の方々がとめて搬出をしていくというような、極めて合理的な仕組みになっているのが事実でございます。しかしながら温度管理だとか、場所の問題などを含めてかなり厳しくなっている。以上が、移転が必要な理由でございます。

## 豊洲市場の基本構想

「新市場のコンセプト」(図4、図5)は、都のホームページにも出ているものがございます。まず、「都民の食生活の安定を確保」があり、大量に集荷をして、その中で分荷、調整して供給していくということ。「効率的な物流の確保」ということで、搬入から搬出まで一貫した物流システムの構築があります。場内荷役の共同化や物流の管理、大口荷捌場の転配送センターを形にすると。簡単に一言で言えますども、これをやるのが我々の使命でございます。「食の安全・安心の確保」という点では、高



## 新市場の東京都コンセプト ①

- 都民の食生活の安定を確保する  
多種多様な品目を大量に集荷、生産者・実需者二ーズの調整によるリスク分散
- 効率的な物流の確保  
搬入→出荷までの一貫した物流システムの構築
  - 場内荷役の共同化
  - 物流管理システム
  - 大口荷さばき場・転配送センター
- 食の安全・安心の確保  
閉鎖型施設・高床式・パース式  
コールドチェーンの確保・トレサビリティ

図4

## 新市場の東京都コンセプト ②

- 顧客サービスの充実  
加工パッケージ施設・商品情報提供
- 環境への配慮  
廃棄物リサイクル施設・太陽光発電・屋上緑化
- にぎわいの創出  
千客万来施設 → 新しい観光拠点

図5

「激変する流通環境の中で、確固たる位置の確立をし、今後の市場再編のモデルとして卸売市場業界をリードしていく」

床式・閉鎖型・パース式の施設ということでございます。加工パッケージや商品情報の提供等で「顧客サービスの充実」を図り、太陽光発電や屋上緑化で「環境への配慮」もしますが、現在、汐留あたりから見ても豊洲市場の屋上緑化はすばらしいもので、そこを都民に開放し回遊できるような形になっています。それから少し進捗が遅れておりますが「にぎわいの創出」ということで、新しい集客施設を造って、観光拠点とする視点もあるということでございます。

以上のコンセプトの中で、卸はどういう考え方をしているのかということ、大きく言うと「激変する流通環境の中で、確固たる位置の確立をし、今後の市場再編のモデルとして卸売市場業界をリードしていく」ということでございます（図6）。そのための方針として大きく三つありまして、①卸売機能の充実、②物流機能の拡充、③がそれらを結びつける情報システムの構築となります。卸売機能と物流機能は相反する機能です。卸売というのは平らに並べて、きちんと物を見て評価して競りをする。しかし物流機能の方では、物を触らないほうが、開けないほうがいいのです。入荷したらそのまま持つていってもちたほうがいいという機能です。

まず卸売機能では、集荷機能や販売機能、情報発信等がありますが、少量多品種のものをたくさん集めて競りをしたり入札をしたり、参加者にたくさん来ていただいて、並べられた商品を評価してもらうことが市場の機能としてとても重要です。これについては、絶対に確保しなければいけません。そのため競りを行う時間帯の問題とか、

## これからの生鮮流通におけ豊洲新市場の役割 ～卸の立場として～

- 激変する流通環境の中で、確固たる位置の確立をし、今後の市場再編のモデルとして卸売市場業界をリードしていく

- ① 卸売機能の充実
- ② 物流機能の拡充
- ③ 情報システムの構築

図6

## ① 卸売機能の充実＝機能重視

- 集荷機能の強化  
全世界・全国からの効率的な集荷  
少量多品種のきめ細かい品揃えの確保→小ロット品の集荷
- 販売機能の強化  
セリ・入札等の強化→時間・方法の工夫も必要（参加者増へ）  
商物一致の原則の工夫→商物分離の模索  
販売先の広域化（航空便を活用した生鮮品の分荷）
- 情報の透明性の担保  
相場・商品情報  
食の安心・安全、トレサビリティ

図7

新しい物流組織、荷受における荷役の共同化を図り、今年四月に「豊洲物流株」という会社を設立

並べ方など、買受人が評価しやすい工夫をしなければいけないということです。これらについては機能重視で確実に実行していきます（図7）。

それに対して物流機能は現状、今までは評価の機能にくつついて、何となくやってきたという部分があります。これについては、入荷から出荷までの一貫物流、効率化ということで、荷物を触らない、動かさないということで効率重視なのです。卸売は機能を重視する、物流は効率を重視しなければいけないということになります（図8）。

これについては新しい物流組織、荷受における荷役の共同化を図り、今年四月に「豊洲物流株」という会社を設立しております。これは言うのは簡単ですがやるのはすごく大変なことで、生意気なことが書いてありますが、これから泥くさくやっています。築地市場の人にくつついた、伝票を持ってターレを運転して、どこそこを持つていくというのは普通の人じゃわからないですね。その人の頭の中に全部入っているものです。それをマニュアル化、標準化した作業にしていこうというものです。新市場では、荷捌場に「Gの何番」とかロケーションナンバーという番号が振られています。バースにもナンバーが書いてある。これだと、「どこどこどこどこに何々を何時に持つていけば大丈夫よ」という情報があれば、持つていける形になるということです。

あとは温度管理・衛生管理ですが、これは高床の閉鎖型で一〇度まで落とせるよう



## ② 物流機能の拡充＝効率重視

- 入荷から出荷までの一貫物流

効率化＝荷物を触らない・動かさない

物流組織の統合化 ⇒ 荷役の共同化

豊洲物流（株） 2016年4月1日設立

築地市場の従人的仕事からマニュアル化した標準作業への変換を  
目指す

- 温度管理・衛生管理

閉鎖型・高床式施設での衛生管理の徹底

卸売場：10℃管理可能な施設

仲卸売場：25℃管理

コールドチェーンの確保

図8

## ③ 情報システムの構築

- 入退場から場内物流に至るまでの一貫したシステムの構築を目指す

- \*卸としての取り組み

都整備＝入退場管理・バース誘導システム

↓ ジョイント

民間整備＝場内物流

入荷⇒引取・配達までの一貫した場内物流

図9

入退場管理システムやバース誘導システムを都が整備。それらと我々民間が整備する場内物流システムとがジョイントすることで、一貫した情報システムを構築していこうということ

な市場になっております。築地市場は断熱パネルなどが入っていないので温度管理はなかなか難しいのですが、豊洲市場は温度管理が非常にきちんとしていて、卸棟は全部が冷蔵庫仕様になっております。したがって、非常に温度効率がいいだろうということですので。室温何度で運用していくのかは費用との見合いもあります。したがって、商品による最適温度をこれから模索していく部分がありますが、何しろあれだけ大きい、国内でも低温化施設としては最大級の施設であることは間違いなくいいものがあります。

あとは情報システムですね（図9）。入荷から場内物流に至る一貫した情報システムが必要だということで、入退場管理システムやバース誘導システムを都が整備します。それらと我々民間が整備する場内物流システムとがジョイントすることで、一貫した情報システムを構築していこうということです。

以上の三つの機能をしっかりかと踏まえて、これから整備をしていかなければいけないということ、組織と運用を今、しきりと考查しているところでございます。

## 豊洲市場の外形イメージ

ここからは豊洲市場の具体的な紹介でございます。まず豊洲市場を上から眺めたイメージ図です（図10）。左手が晴海方面ですか。次が全体配置図です（図11）。ホーム



## 豊洲市場の特徴の整理

1. 高床型バース構造
2. 立体構造の卸売場
3. 閉鎖型低温管理の運用
4. 施設の共同運用

図 12

### ●築地市場と豊洲市場の比較

	築地市場	豊洲市場
敷地面積	23ヘクタール	40.7ヘクタール
施設条件	開放型・一部高床 荷捌場はほぼ常温	完全閉鎖型・高床式 (青果平床)・バース式 温度管理7街区10.5℃ 6街区25℃・5街区23℃
施設配置	水産・青果一体型	水産卸・仲卸・青果3分割
運用	平面的運用	立体的運用 7街区は1F⇔3F⇔4F
情報連携	各企業の部分最適	入退場管理等共通の プラットホームの構築 場内LANの構築

図 13

特徴をまとめてみますと高床型バース、それから立体構造の卸売場です。後で立体構造が出てきます。それから閉鎖型低温管理と、先ほどの共同運用という形になっております。

築地と豊洲の比較がこの一覧でございます(図13)。築地市場は二三haの面積があるのに対して、豊洲は四〇・七haです。施設条件では、築地は先ほど述べたとおりほぼ常温でございますが、豊洲は完全閉鎖型の施設になります。施設配置ですが、築地市場が水産・青果一体型なのに対して、豊洲では三つに分断している。また、平面的な運用であったのが、豊洲では立体的な運用にすることで、情報連携が必要となります。

情報関連については、築地では各社各様で施設に情報機器を設置しておりますが、豊洲市場では五街区、六街区、七街区全体に場内LANを敷設しております。したがって、これから情報化をするに当たってはそれをうまく活用して、各社さんも含めていろいろな情報システムの構築ができることとなります。

### 豊洲市場の規模

豊洲市場の面積がどれほど巨大なのかを示した図です(図14)。図の上の方は日建設計さんが作った豊洲市場の設計図でございます。大きさを比較するために、同じ縮



## 豊洲市場の規模

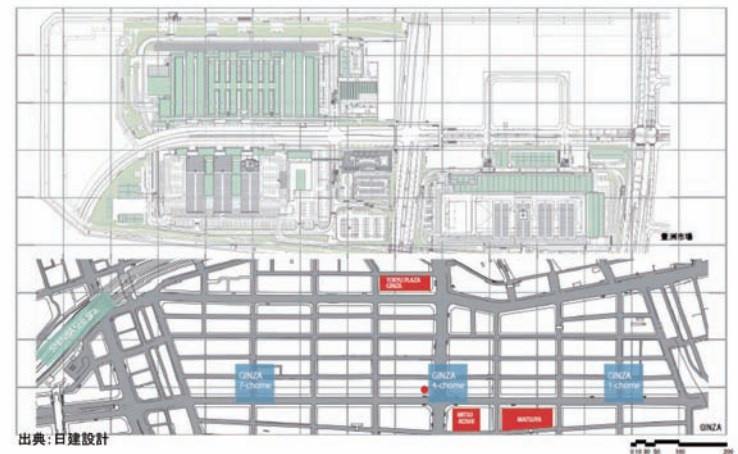


図 14

縦横全体のスケールでは、ちょうど銀座の街がパチッとほまるぐらいの感じになり、極めて大きな施設となる

尺で下に並べたのが新橋から銀座までの地図です。左端が新橋の駅です。これが中央通りで、これが外堀通り。ここが東急ですか、新しくできたところですね。ここが銀座七丁目。これが銀座四丁目交差点の和光があるところですね。そして三越があり松屋があって、ここに伊東屋があるのかな。七街区の一番端が新橋駅に当たるとすると、五街区青果の一番端がどこになるかというところ、ちょうど銀座一丁目に当たります。したがって、市場内で荷物をちよつと忘れて取りに行くとなると、銀座を歩き来するぐらいの広さになっているわけです。縦横全体のスケールですと、ちょうど銀座の街がパチッとほまるぐらいの感じになり、極めて大きな施設となるわけです。

実際の距離のイメージを同心円で示した図です(図15)。水産の卸売場の中心から見ますと、ちょうど右端辺りで七五〇mもありますから、端から端では1km以上もあるということですね。また、上の方が仲卸棟になるわけですが、仲卸棟の端でも二五〇m以上の距離になります。

同じイメージ図を築地市場に当てはめたものです(図16)。ちょうど水産卸売場の中心辺りから朝日新聞側の出入口までが四〇〇mぐらいで、大体これが一番長い距離になります。

豊洲は面積で築地の二倍あるわけですから距離も二倍あるのは当然ですが、さらに街区の間に大きな道路が通っていますので、なおさら距離感を感じることになります。

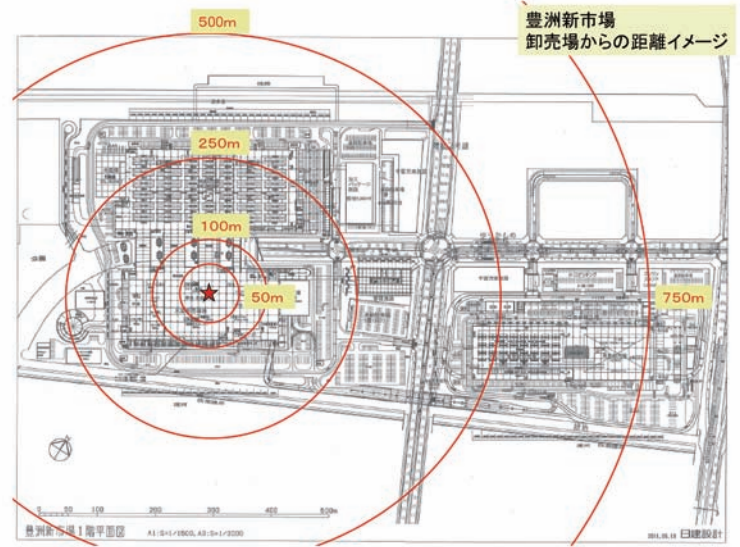


図 15

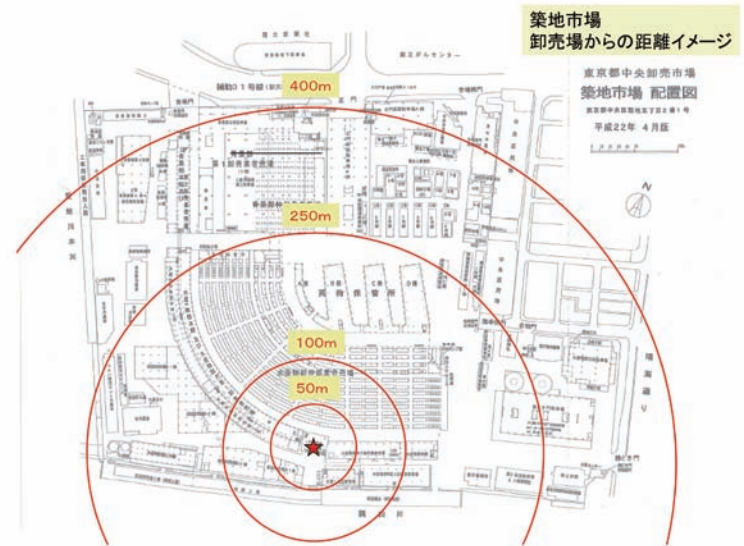


図 16

## 豊洲市場の基本設計

具体的に施設はどのようなになっているのかを御紹介

具体的に施設はどのようなになっているのかを御紹介します。これは六街区の水産卸棟と七街区の水産仲卸棟の配置でございます(図17)。それぞれの街区には壁があり閉鎖型になっております。真ん中に三二五号線が通っていて、その高架下にトンネルみたいに筒状に四つの連絡通路があります(黄色部分)。それぞれ一二m、三二六m、三六m、一二mの幅のある通路になっております。それら通路も含めて閉鎖型の施設になっております。水産卸棟で売買された魚を仲卸棟に運ぶ場合などはこの通路を行き来するわけです。

あと赤色部分は「バース」と書いてありますが、卸棟で大体五〇バースあります。一〇t車をつけて荷物をおろしたり、持っていくたりすることが出来る施設になっています。車はこれの中に当然直接入りませんので、ここでおろして持っていくわけですが、こちら側に買い出しのトラックがとまるわけですね。それで、ここで商売したものを配達して持っていくという形になっております。

これは卸売場一階の配置図(図18)ですが、この範囲で高床型になっております。一番左に活魚があり、そこから順に特種、鮮魚、大物と続きます。右端にホウスイの冷蔵庫があるという状態です。活魚のみ高床になっておらず、平床で屋外になりま

## 6・7街区（卸棟・仲卸棟）の配置

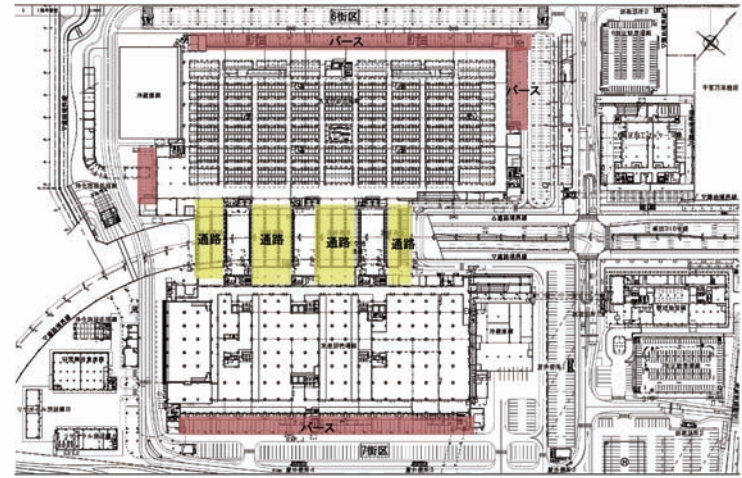


図 17

## 豊洲市場7街区 1F平面図（卸売場色分け）

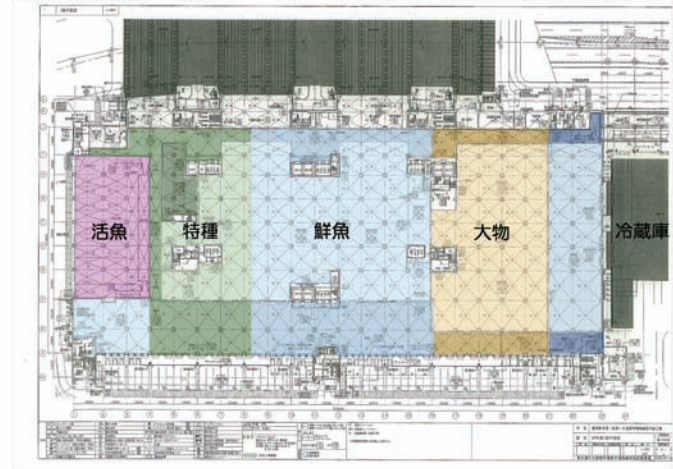


図 18

す。温度管理はこの範囲でしていくという形になっておりまして、どちらかというところからドライ系にいくというのが一階の考え方になっております。

卸売棟二階の平面図（図19）ですが、ウニの卸売場だけがあります。あとはほとんど中二階で、こちら側が天井になっていきますので卸売場が見渡せるような状況です。

これは三階平面図（図20）ですが、塩干、ドライ系の卸売場になっていて、三階には先ほど御説明した三二五号線道路から直接こちらにアプローチできるような形になっています。三一五号線から見ると、ここが一階フロアになるようなイメージです。同じく閉鎖型になっていて、ここに車をつけて荷物をおろします。この緑色のところが、一応今の競り場というか、入札場というか、卸売場になって、こちらに巨大な荷捌場があるというのが塩干の卸売場でございます。

市場をどのように運営していくのかについて、卸の共同化事業に絞ってまとめた表（図21）

このような市場をどのように運営していくのかについて、卸の共同化事業に絞ってまとめたのがこの表です（図21）。一つ目が共同施設の管理運営ということで、低温化施設や卸の食堂や更衣室などは共同化しようということで、(株)水産卸ビジネスサポートという新会社で一元管理します。二つ目に場内物流については、入荷・分荷配送を一貫でやる機能を豊洲物流(株)という新会社が担います。二〇〇人以上の大規模な会社になる見込みです。三つ目に買出人の駐車場等は、青果事業連合、六街区、七街区でそれぞれ、協議会を立ち上げて調整していきます。街区間の全体調整は調整会議で駐車料金を決めたり、割り振りをしたりするという形になっております。それぞれ



## 豊洲市場の運営（卸の共同化事業）

1. 共同整備施設の管理運営  
低温化施設・卸業者等共同食堂・共同更衣室等  
～(株)水産卸ビジネスサポート
2. 場内の共同物流  
入荷・分荷配達業務～豊洲物流株式会社
3. 買出人駐車場の管理  
青果事業連合・6街区協議会・7街区協議会  
各街区間調整は調整会議で行う
4. 濾過海水供給事業  
東卸と共同事業。業務用の海水（活魚・鮮魚  
・マグロ類用）供給事業

図 21

豊洲市場7街区 2F平面図（卸売場色分け）



図 19

豊洲市場7街区 3F平面図（卸売場色分け）

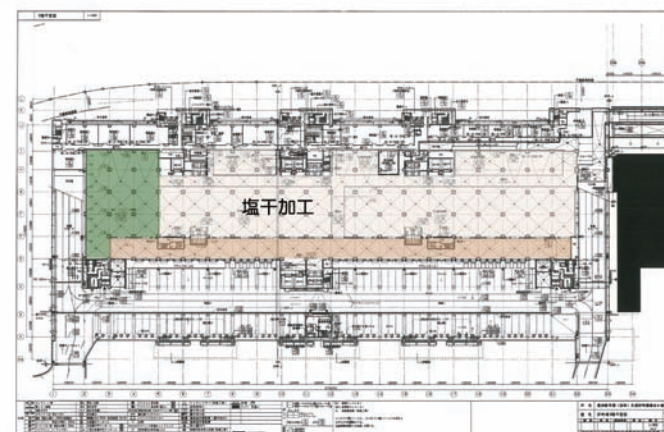


図 20

新市場で想定される垂直の物流動線

買出人の駐車場の場所がまだ決まっていないということですが、この辺は八月から九月にかけて確定をしていく予定です。これは卸だけのものではなくて、全体でやっていく共同事業です。四つ目の濾過海水ですが、築地では井戸水が足りないということですが、東京都が隅田川からくみ上げて供給していたわけですが、床洗浄等に使うというのが基本的な用途で、実際にはいろいろな用途で使っているということです。今度はそういう用途では使わないということで、民間で濾過海水の供給事業を行います。それは仲卸さんと卸の共同事業で、業務用の海水供給を行う事業となります。

場内の物流

場内の物流の考え方ですが、これが新市場で想定される垂直の物流動線です(図22)。先ほどご説明しましたとおり七街区では一階が卸売場、二階がウニ卸売場以外はほとんどなく、三階が塩干、中央運送さんや東発さんなどが入る転配センターが四階で、卸の事務所が五階というのが七街区の立体的な構造でございます。

六街区の仲卸さんのほうは、一階に仲卸店舗があつて、四階に買出人の広大な駐車場があります。

両街区の間にある三二五号線下の通路は一〇〇mあつて、ここを必ず行き来して、上に行ったり、下に行ったりします。例えば、同じ人が伝票を持ってあちこちに移動

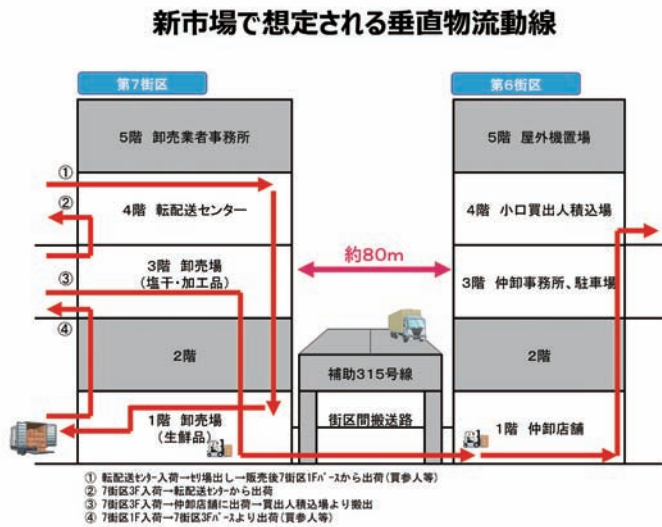


図 22

## 豊洲市場の物流上の課題

1. 搬送距離が長い  
315号線下の約100m通路
2. 垂直方向の搬送  
7街区～3層（1F・3F・4F）  
垂直搬送機12台・人荷用EV7台・スロープ1本  
6街区～2層（1F・3F）  
人荷用EV6台・スロープ3本
3. 閉鎖高床式構造  
現在のターレ方式の搬送のみでは成り立たない。
4. 買受人の駐車場所が決定するのに時間がかかる。  
今後、管理主体を組織化して、割振りをする。  
特に7街区の割り振りをどうするか？  
（6街区は買荷保管等が管理）

図 23

## 豊洲市場の物流の考え方

豊洲新市場の構造的特徴に合わせて、卸の場内物流も根本的に築地市場で行われている方法から変更していく必要がある。



入荷から引取・配達までの一元的一貫物流の実現  
事前入荷情報・販売情報の集約  
場内物流作業の共同化 ⇒ 共同物流会社の設立  
搬送機器類の開発  
⇒ ターレ・フォークの他、かご車・台車の検討

図 24

豊洲市場の構造的特徴に合わせて、卸の場内物流も根本的に築地市場で行われている方式から変更しなければならないのが原則

すると非常に大きなタイムロスとなります。したがって、伝票をリレー方式で持っていくロスを減らすなど、運用の部分でかなり調整していく必要があります。こうした、搬送距離が長い、垂直方向の搬送や閉鎖高床式の構造への対応、さらに七街区・六街区の買受人の駐車場の管理については、築地ではいろいろな人がそれぞれのやり方でしてきたことを、豊洲では一括して調整する必要があります（図23）。

「豊洲市場の物流の考え方」（図24）ということで、豊洲市場の構造的特徴に合わせて、卸の場内物流も根本的に築地市場で行われている方式から変更しなければならぬのが原則です。そうした考えで豊洲市場を造ったのですけれども、それを使う人は同じなのですね。築地でやっていた人が今度は豊洲に行くわけですから、そう簡単にはいかないよというのが実際のところでございます。しかしながら、少しずつ変えていかなきゃならないし、今、向こうへ行って、そういうことを皆さん、肌で感じながらやっていかなければいけないのかなと思います。先ほど会長の話にもありましたが、現場力というのが市場はものすごく強いのです。だから、即応体制としてどういうふうにしたら良いのかは、かなり皆さん考えていただけるのかなと思います。机上の空論は市場の人は皆さん苦手なので、「こうしなければいけないのだ」と口で言われても、その通りにするのは難しいのですね。今度は実際に現場ができましたので、そちらで動きながら解決していくこととなります。入荷から引き取り・配達までの一元的一貫



## 豊洲市場施設整備スケジュール

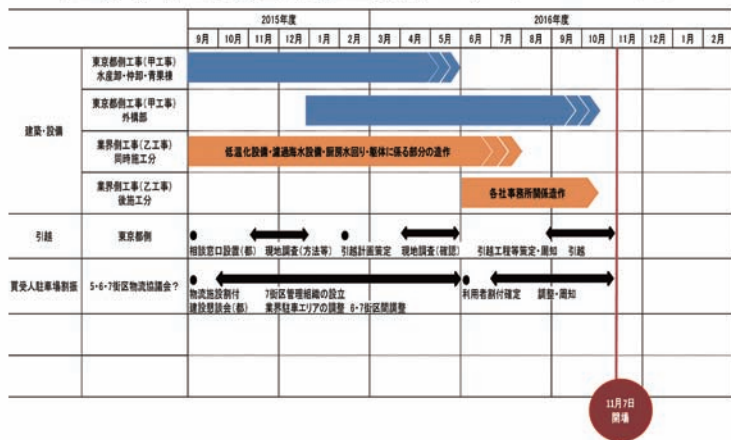


図 25

## 7街区 水産卸棟



図 26

搬送機器では、築地ではターレ  
一辺倒だが、こうした物流手段  
が豊洲へ行ったらどうという運用  
になるのか、いろいろと試して  
みて、進化していかなきやなら  
ない

物流の実現とか、事前入荷情報の集約等を今、一生懸命やろうとしています。搬送機  
器では、築地ではターレ一辺倒ですが、こうした物流手段が豊洲へ行ったらどうい  
運用になるのか、いろいろと試してみても、進化していかなきやならないという現状で  
す。ですから、かご車だとか台車——台車もちよつと違う台車などを考えたりしなが  
ら、現在、運用訓練、習熟訓練を始めていくところでございます。

## 七街区の施設整備の状況

大体このようなことが考え方になり、この図のようなスケジュール(図25)で施設  
整備が進められていますが、ここからは各施設の写真をご覧いただこうかなと思いま  
す。

まず、これが七街区の水産卸棟の外観写真でございます(図26)。卸売棟の一階パー  
スです(図27)。みんなこのような高床閉鎖型になっています。これがプラットフォーム  
になっていて5mの幅があります。もうちよつと大きくてもよかつたかなという思  
いはあるのですが。ここは今、シャッターで閉まっていますが、この内側にシート  
シャッターがあります。これが水産卸棟一階の荷捌場です(図28)。左手の向こう側  
が、先ほどのプラットフォームになっていて、そこから入ったところですね。大体柱二  
スパン分と言うんですが、一階で言うと二四mぐらいずつと荷捌場になっており

## 水産卸売棟1階バース



図 27

## 水産卸売場1階荷捌場



図 28

一階の鮮魚売場は二重の扉になっている

ます。ここで最初の仕分けとか、あるいは出荷するところの待機などをしていく場所です。これも一階の低温化施設(図29)で、同じように外が見えます。

同じく一階の鮮魚売場です(図30)。これがさらに荷捌場の柱二スパンから内側に入ったところで、要するに二重の扉になっているのですね。ここが本体の卸売場になります。ここで荷物を並べたりしながら物を売っていくという形になっております。したがって、卸売場のほうは二重になっているので、荷捌場のほうは割と外とつながってしまっているので開けっ放しになったりするかもしれないけれども、こちらは温度的にはきちんと管理ができる形になっております。この天井は高い部分で8mもあり、なぜかという点、次に紹介しますが見学者用通路があり、上から見えるようになっていっているんですね。この写真の上の方に、その見学者用通路があります(図31)。ぐるりと見て回れるような構造になっています。最近では築地市場の仲卸売場まで乳母車を押して入ってくるような一般の方もいます。あの市場によく入ってこれるものだと思いますけどね。そういう人たちが見学を勝手にされているのですが、豊洲市場では一般の見学者が、売場に直接入ってくることは難しくなります。昨今、テロ対策とか、いろいろな問題が出てきていますので、こういう離れた場所から見学していただく形になっています。

これがマグロの卸売場ですね(図32)。マグロだけ床の色が違います。マグロの卸売場には少し高い場所に見学室があります(図33)。この上に、先ほど説明した見学

水産卸売場1階 鮮魚売場見学者通路



図 31

水産卸棟1階 低温化施設



図 29

7街区 水産卸棟1階マグロ卸売場



図 32

水産卸売場1階 鮮魚売場

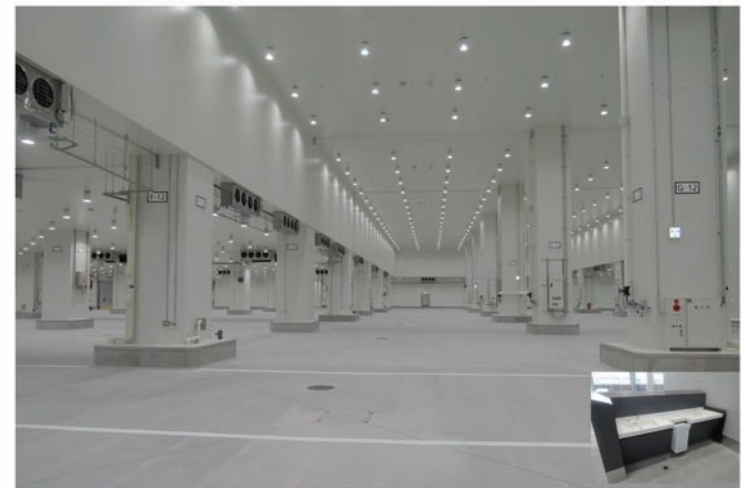


図 30



## 水産卸棟1階マグロ卸売場見学室



図 33

者通路があるわけです。この部屋から、競りを間近に見られるようになるということ  
でございます。

一階は大体こんなような構造になっていて、ご覧のとおり、非常にきれいな構造で  
ございます。

三階のバース。プラットホーム  
があり、ここに車で着荷したも  
のを荷下ろしする。三階は全部  
屋根付き

続いて三階のバース(図34、35)は同じくプラットホームがあり、ここに車で着荷  
したものを荷下ろしします。直上に四階がありますので、三階は全部屋根付きです。  
こちら側に待機駐車場があるということで、屋根つきの積込場になるというのが四階  
です。まだ工事をやっているところですが、三階の荷捌場です(図36)。同じように  
天井高5mぐらいで、こちらは柱一スパンぐらいですかね。これが三階の塩干の見  
本の卸売場です(図37)。天井の冷気設備は直接吹き出し口から出るものではなくて、  
このようなストッキングのようなものがあって、冷気がほわ〜と落ちていくような  
形のソックフィルターがついております(図38)。こちらが普通の室内機ですが、冷  
気が出てくる荷捌場の外から見たものです(図39)。このように上部に番号が振って  
ありますので、この番号のところに配達をしていくことになるわけでございます。

階と階を行き来する垂直の移動手段として三つの設備があります。一つが、写真で  
は内部がよく見えませんが、垂直搬送機という―冷蔵庫関係の方が多いので説  
明するまでもないかもしれませんが―人が乗るのではなくて、パレットやかご車だ  
けを載せて連続的に上げたり降ろしたりするもので、全部で二台あります(図40)。

水産卸売場棟3階 荷捌場



図 36

水産卸売場棟3階バース



図 34

水産卸売場棟3階 見本売場



図 37

水産卸売場棟3階バース



図 35

## 垂直搬送機



図 40



図 38

## 7街区 水産卸棟3階



図 39



## 人荷用エレベーター



図 41

## ターレ等場内搬送機用スロープ



図 42

人荷用のエレベーターは、ターレもフォークリフトも載せられるもので九台ある

パレット単位だと二つ載せられるものと一つ用のものの両方があって、二つ載るタイプがメインになっております。次は人荷用のエレベーター(図41)で、ターレもフォークリフトも載せられるもので、九台あります。もう一つ、ターレ用のスロープがあります(図42)。これが我々の七街区には一つ設置されており、仲卸棟にはこれが三つあります。このターレ専用の坂を搬送機で上って行って荷物を満載して、どのくらい上ったり、降りたりできるのか、これから実証実験を早急に行なって確認したいということ、今月から来月にかけて、集中的にその実験をしていきたいと思っております。これは一階の卸売場の喫煙室です(図43)。築地では、屋外が多いですからいろいろなところで気ままに吸えたのですが、豊洲の卸売棟では完全に喫煙場所が幾つかに限定されています。仲卸棟の方は全面禁煙で、屋外でしか吸えないことになっております。

次が柱の写真ですが、設備柱といいます(図44)。豊洲市場では建物の壁内に断熱パネルが入っているのですが、後から壁の表面に別の物を付けたりはわせたりすることができないのです。築地では、壁にトンカチでトンとトンとやって穴を開ければ、いろいろ設備がくつつけられたり、ぶら下げたりできたのですが、今度は低温管理型で断熱パネルが入っているので、穴を開けあげちゃうと結露するそうです。ですから、そういうのが気ままにできないということがあるそうです。そこで、柱に消火栓や散水栓とか、濾過海水の出水口とかの配管や、ターレ用の充電器や場内LANといっ

## 卸売場内喫煙室



図 43

## 設備柱



図 44

た電気通信系統など、一つ一つの柱にそれら設備を集中的に取り付けているのが、新市場の特徴の一つでございます。

これは、造っている途中ですが、卸各社が共同運営する社員食堂です（図45）。二〇〇平米ぐらいの大きな食堂となります。非常に環境の良い、きれいな明るい食堂になりますので、完成したらぜひ訪問してください。

この写真が先ほどもご説明しました、三二五号線の下をくぐって、水産卸棟と仲卸棟とを結ぶ連絡通路（図46）。こちらの道幅は大体二二mです。このように両側が橋桁のようになっているのですが、先ほどの設計図（図17）でご覧いただきたい三六m幅の通路ですと、この二二m幅のものが三つくっついているということですね。橋梁構造といって、一つ一つが下に足がなくて、これが橋になっているのですが、そういう構造のものでございます。これは卸売場の一番端の通路です（図47）。上に連絡通路1と表示されています。高さは通路により様々ですが、これが一番低いところですね。この写真は卸棟（七街区）から見たもので、向こう側が仲卸棟（六街区）です。

次は四階の転配送センターのバースです（図48）。ここはプラットホームがなくて、全部バース構造になっています。ここに荷台をガチャッとくっつけて、低温管理のまま、荷物が行き来できる状態になっております。これが四階の転配送センターの内部です（図49、50）。天井高はちょっと低いですが、大体七〇〇平米ぐらいの大きな

三二五号線の下をくぐって、水産卸棟と仲卸棟とを結ぶ連絡通路

6・7街区連絡通路 7街区売場から



図 47

卸共同食堂



図 45

水産卸棟 4階転配送バース



図 48

水産卸棟⇔仲卸棟連絡通路



図 46



## 水産卸棟 4階転配送センター

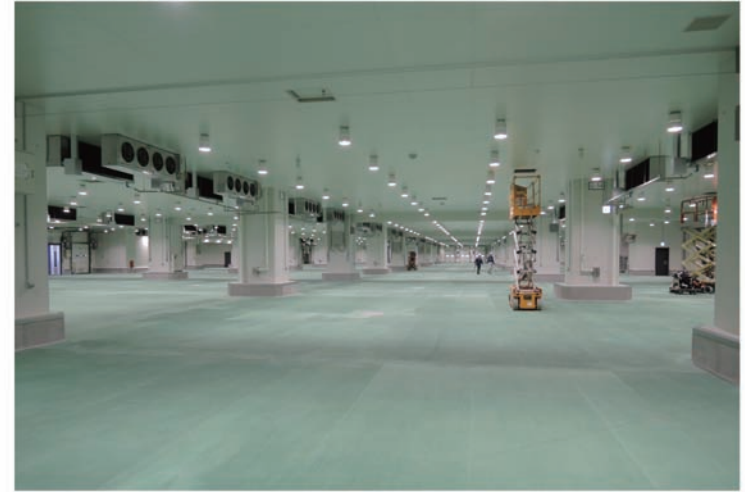


図 49

## 水産卸棟 4階転配送センター



図 50

規模を持っております。

これが卸売棟四階の駐車場です（図51）。ここは先ほど御説明した太陽光パネルのところですね。このように待機の駐車場があつて、こちら側に先ほど御説明した本体構造があります。四階もかなり大きい施設になっております。

## 六街区・五街区の施設整備の状況

これが六街区の水産仲卸棟の外観です（図52）。

仲卸店舗の通路は築地市場内の石畳に似たようなタイル貼り

こちらが仲卸の店舗になります（図53）。非常にきれいな店舗で、通路は築地市場内の石畳に似たようなタイル貼りになっています。反対側の店の裏には6m幅の大きな通路がありまして、非常にきれいな構造になっております。

これが仲卸棟一階の積込バースです（図54）。この裏が仲卸の店舗になっていて、一階が東側積込バースというのですが、ここにプラットホームがあつて、ここに車をつけます。その裏側がまた駐車場になっているということ、ここは4t車でも十分つけられるような構造になっております。

これが四階の買出人駐車場で、800台ほどの駐車が可能（図55）。

六街区の四階の仕分けエリアです（図56）。ここはみな室内となつており、温度管理ができる仕分け場として六街区に二カ所あります。

### 6街区 水産仲卸棟



図 53

### 卸棟4階駐車場



図 51

### 水産仲卸棟1F 積込バース・駐車場

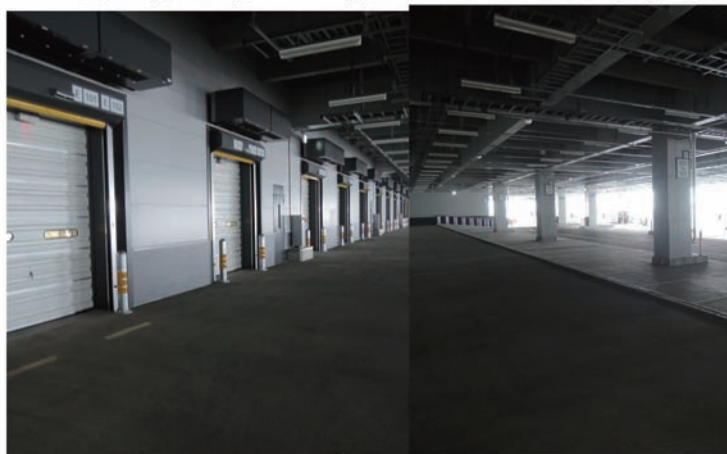


図 54

### 6街区 水産仲卸棟



図 52

## 6街区 水産仲卸棟4階買出人駐車場



図 55

## 6街区4階仕分けエリア



図 56

水産仲卸棟の屋上緑化。都民の方が回遊できるような公園になっている

水産仲卸棟の屋上緑化です。非常にきれいな緑があつて、都民の方が回遊できるような公園になっています(図57、58)。卸売棟からはこれがよく見える構造になっています。

五街区の青果棟です(図59)。青果の卸売場はこんな状態で、温度管理は二五度の地冷ということで非常に広い空間を持っております(図60)。こちらはまだ、私たちが詳しく見えてはいませんけれども。

これが上空から撮影した写真です(図61)。手前が六街区で屋上緑化されているのが見えます。その奥が七街区です。

これが汐留の高層ビルの飲み屋から撮影した景観です(図62)。正面真ん中に本日の会場の東京水産振興会やホウスイさんの冷蔵庫等が見えます。手前が浜離宮で、その左側に築地市場の一部が見え、左端に環状二号線が伸びています。それらのずっと奥に豊洲市場がありますが、遠くから見ても非常にきれいな市場でございます。

最後に、これは昨日撮影したばかりの築地場内の写真です(図63)。この写真では一つ一つが雑多に動いているように見えますが、これはこれで一つの秩序がしっかりとできていて、みな法則があります。自分たちの場所もしっかり決まっています。八〇年という年月をかけてしっかりとシステム化してきたのが今の築地市場でございます。築地市場の秩序を豊洲市場に当てはめるといふのは、なかなか難しい課題であります。いかに豊洲市場で大きな混乱がないように、同じような形に落ちつけていくの



### 5街区 青果棟



図 59

### 水産仲卸棟 屋上緑化



図 57

### 青果棟 卸売場施設



図 60

### 水産仲卸棟 屋上緑化



図 58



築地市場 2016年7月25日



图 63



图 61



图 62

かということが、我々の移転への使命だと思つて一生懸命やらせていただきますので、皆さんも協力をお願いしたいと考えております。

私からは以上でございます。どうもありがとうございました。（拍手）

#### 質疑応答

○司会 浦和さん、どうもありがとうございます。  
いました。

初めに伊藤様から、豊洲新市場への移設の経緯から今後の市場のあり方と、その思いについてお話をいただきまして、後半は豊洲新市場の最新の設備状況などを、写真や図を使ってわかりやすく御説明いただきまして、私も非常にイメージが湧きやすかったです。

それでは、この後一四時半までお時間をいただき、質疑応答の時間に使わせていただきますと思います。本日の伊藤様と浦和様の御講演につきまして、御来場の皆様か



ら御質問や御意見がございましたら挙手でお願ひしたいと思います。いかがでしょうか。

それでは私から最初に、浦和様に御質問をさせていただきます。これからの生鮮流通における豊洲新市場の役割として、卸売機能の充実、特に販売機能の強化のお話を、スライドの八ページで御説明をいただきましたが、販売先の広域化ということで航空便を活用した生鮮品の分荷に関連して、これからの新しいビジネスモデルの構築に向けては、やはり航空便による生鮮品の取り扱いがますます重要になってくるものでしょうか。もし、コメントがございましたらお願ひしたいと思います。

○浦和講師 私ども卸協会の立場から申しますと、ハードについては我々のほうで行います。商売のほうの機能については、個社でこれからいろいろ戦略があられるという部分かと考えております。そのための温度管理、ハードの部分の充実については世界に対抗できるものになっているのかなと考えております。

あとは広域化の商売の部分については、個社それぞれの戦略でおやりになることと思います。我々はプラットフォームをしっかりつくるといことになるのかなと考えております。よろしいでしょうか。

○司会 浦和さん、ありがとうございました。

もう一つだけ済みません。最後にいろいろ設備の写真を見せていただいたのですが、今後、東京でも地震が頻繁に起こるリスクがあると思うのですが、電気関係がストップしてしまった場合、自家発電設備のようなものは対策として組み込まれているのかどうかお教えください。

○浦和講師 これについては二種類ありまして、外部電源がストップしてしまった場合、地域冷暖房という施設で三分の一ほどの電気をガス発電によって供給する体制があります。これにより最低限の運用が何とかできるというのが一つです。ガスは比較的地震には強いという説明を受けております。

もう一つは本当の非常用発電で、別個に設備があります。以上の二系統で対応するという説明を受けております。

○司会 どうもありがとうございます。

会場のから御質問がありましたらどうぞ。

○質問者 赤井と申します。二つご質問があります。

今のお話で、大変立派な施設ができることは了解しましたが、一方で施設の維持費などコストが相当増大するようですので、特に仲卸や買参人の経営が、これからか

り大変になってくる気がするのですが、そこは何らかの配慮がなされるのかどうかという点が、質問の一つ目です。

二つ目は、一般紙の報道にもあったのですが、水産物取扱について今後、輸出に向けられるウエイトも大きくなると言われているのですが、それは本日のお話の中ではなかったような気がしましたので、簡単にいいのですがその部分もお願いしたい。

○伊藤講師 費用の点は、実はこれが一番の問題でございまして、一つは東京都に支払う機能別の使用料が付加されるということで、これは既にいろいろ交渉しまして煮詰まっております、ほぼ固まっております。

問題は、我々民間の費用負担による設備運用もかなりございまして、例えば無線LANだけでも三〇億円、ごみ処理だけで五億円ぐらいかかります。卸の冷凍設備、それから共同運営の食堂などいろいろいるものが全体で、卸の方だけでも約六〇億円かかります。これらは全部それぞれ民間でお金を借りまして、約一八年で返済していくこととなります。当然、我々の日常の負担にかかってくるということでございます。

一番の問題は日常の物流についての程度の費用がかかるのか、まだきつちりと計算できておりません。先ほど浦和専務が御説明したように、共同物流ということで合理化が図れないかという形での対応を考えています。

それから仲卸さんのほうは、さつきもお話がありましたように、お店の数、企業の

数としては現在よりもかなり減ることになります。面積的にはそのままです。軒当たりの面積が若干広くなるということで、新しい地図がこの間オープンにされたわけですが、それでもまだ個々には譲り合いということがこれから起きてきますので、最終的にどのくらいの軒数になるのかというのはこれからでございますが、それらの負担も東京都の間ではほぼ話ができております。基本線としては、従来の築地とほぼ変わらない単価でいくことになります。ただ、面積が広がっていますからそういう点、あるいは地冷などの負担は一部かかっています。

それから、先ほど説明があった濾過海水も仲卸の全店舗、それから卸のほうは競り場に配管が全部できることになっておりますが、これも民間の資金でやることになって、現在既に工事は済んでおりますが、若干今よりも高くなるだろうと思っております。試算をしているところです。

我々としてはそういうことも含めて、ランニングコストが果たして毎年どのぐらいかかるのか常にその試算をしながら、みんなで相談してここまでやろうと、ここまではちよつときついなということを考えながら今、話を進めているところですが、その辺が一番頭の痛いところです。

一方では温度管理や衛生管理の徹底など、これからの卸売市場に対する要求事項や規制が強くなっています。そういう時代の要請があるものですから、そうした部分とコストとのバランスをどうとっていくかということでございます。

先ほども冒頭申し上げましたように、設計の思想が途中で変わってしまったものから、全体物流としてはなかなかうまくいかない面が私はあると思っております。それらを実際のソフト面でどうカバーできるのかというのが今、我々の課題でございます。

もう一点の輸出に関する御質問につきましては、今それぞれに、例えば仲卸さんはあちこち出かけられたり、あるいは来てもらったりしながら、市場としてどういう品ぞろえができて、どういう輸出ができるのかを現在、課題にし、大きなテーマとしてやっておられます。また卸では、輸出についてどういう形の取り組みができるのか、各社でいろいろと研究している段階でございます。

ただ、市場としてはどういう設備、例えば保税や通関は冷蔵庫のほうはかなりできるので、卸あるいは仲卸として、どこまでそういうことができるのかということ、これはこれからの課題でございます。

ただ、先ほどもメールがあったのですが、内閣のほうでも今、官房でオリンピックも含めた輸出対策——オリンピックで選手村や何かで物を使うのも輸出の一種でございます。そういう総合的な対策を官房として進めていくということで、既に活動が始まっております。私にも「来てくれ」と今、呼び出しがかかったのですが、輸出についてどういふふうにやっていくかを、これから協議していこうという段階でございます。



○司会 最後にもし、御質問がございましたら受け付けますが。

それではほかにないようですので、これもちまして本日の講演会を終了させていただきます。ただきたいと思えます。伊藤様、浦和様、本日はどうもありがとうございます。最後にもう一度、大きな拍手をお願いいたします。ありがとうございます。〔拍手〕

※編集者注

本号は平成二八年七月二六日に開催しました第一二三回水産振興のための講演会の内容を取りまとめたものです。その約一か月後の八月三一日に、豊洲新市場への移転開業の延期が小池都知事から正式発表されたことは周知のとおりです。都民に対する食料供給を保障し、食の安全・安心を確保するため、早期の問題解決がなされることを強く希望いたします。

## 時事余聞

◇：今年は風水害の多い年である。取り分け台風一〇号による被害は甚大だ。農林水産関係だけで七一・三億円にのぼるから驚く。しかも一〇号は統計上初となる東北地方太平洋側からの上陸により、北日本に大きな豪雨被害をもたらした。それに台風二号や一号などは日本近海や北緯三〇度前後で発生している点も珍しい。発生位置が比較的高緯度である点特徴的だ。被害額も台風一号と九号で三一・六・三億円に達し、うち水産関係は一四・二億円。一〇号は更に多く総額七一・三億円。うち水産関係は一七四・五億円にとどまったが、それでも水産関係は一・九億円となった。

◇：今年八月以降の被災者は一号と九号と合わせて死者二名、負傷者七六名だった。ちなみに一九二六年から一九四九年までに上陸した数は日本九八、アメリカ九一だった。台風一個当たりになると死者は日本一九九人、アメリカ三八人で日本の方がはるかに多い。住居など建造物の強度が両国で差があるのも、その一因であろう。

◇：頻繁に出現した大型台風以外に、いわゆる豆台風も侮れない。豆台風といってもかなりの風雨を伴うので予想外の被害を受けることもある。俗にゲリラ台風とも呼ばれ、正面から対決する大型台風より手を焼く場合もあり、意表をつくだけに普通の台風より被害が大きくなる場合もある。室戸台風、枕崎台風、狩野川台風、伊勢湾台風など歴史に名を残す台風より始末が悪い場合すらある。近年は観測技術が発達し、進路予想など防災体制が整備されているので、それほど神経質になる必要はないとの見方もある。しかし台風は大にしろ小にしろ被害を残すことは明らか。油断は禁物である。(K)

## 編集後記

昨年三月発行の本誌第五六七号は、日本橋から築地への移転に至る混乱と苦難の歴史を繙きつつ、築地ならではの市場文化が培われ、それが豊洲新市場にも引き継がれていく展望を述べた内容でした。本号で二人の講師が詳細にご説明されたとおり、豊洲移転が決まるまでも、長年にわたる紆余曲折がありました。移転延期とはなりましたが、早期の問題解決のもとさらなる発展を強く願うものです。ご多忙の中、ご講演をいただいたお二人に深く感謝申しあげます。

### 「水産振興」 第五八六号

平成二十八年十月一日発行

(非売品)

編集業 井上恒夫  
発行人

発行所

〒104-0055 東京都中央区豊海町五番一  
号 豊海センタービル七階

一般財団法人 東京水産振興会

電話 ☎ 三五三三八一一  
FAX ☎ 三五三三八二一六

印刷所 (株)連合印刷センター

(本稿記事の無断転載を禁じます)

ご意見・ご感想をホームページよりお寄せ下さい。

URL <http://www.suisan-shinkou.or.jp/>

平成二十八年十月一日発行（毎月一回一日発行）五八六号（第五十卷十号）